

委員会等活動報告 —北の大地から未来に向けて—

●社会活動委員会北海道スタンダード研究委員会

北海道を見つめ ちから 価値を発見・創造し さらにその先へ

天 沼 宇 雄 (あまぬま たかお)

技術士(建設・総合技術監理部門)

北海道本部
社会活動委員会
北海道スタンダード研究委員会
代表
北海道総合政策部政策局社会資本課



1. 活動目的

当研究委員会は、北海道に住む我々“北海道人”が、“北海道らしさ”や、北海道人の考え方や気質など北海道そのものを探求し、“北海道のあるべき姿”、“北海道の自立”、“北海道の役割”など、幅広い分野で議論を交わしつつ、北海道から日本を元気にするような様々な提案を、道内外に、そして未来に向けて発信していくことを目指している。また同時に、活動を通じて北海道の明日を担う人材を育成したいと考えている。

2. 具体的取組

- 北海道らしい考え方や提案を研究するために有識者を招いた勉強会、講演会、WSを開催している
- 北海道を元気にする多くの提案をまとめた「(仮)北海道スタンダード提言書」の作成を目指す
(会員数 86名 (H28.1.22現在))

3. 活動経過

これまで全11回の勉強会(講演会)を開催し、様々な角度から北海道の特性や課題を勉強しながら、3回のワークショップを開催し、具体的に課題解決に向けた議論を重ねてきている。

例えば、「くらし・まち・行政」の視点では、元北海道開発局長の熊谷勝弘様より、日本のエネルギー事情と北海道の貢献の可能性や、観光面における景観形成の視点の欠如等についてご指摘いただいた。

北海道の「歴史・文化」の視点では、東海大学の石塚耕一教授から、松前藩の家老蠣崎波響がアイヌの酋長らを描いた「夷酋列像」の物語などをご紹介いただき、“北海道の文化”を再発見させられた。

「食」という視点では、ニッカウヰスキー北海道工場の西川工場長様に、竹鶴正孝が北海道に根ざしたウヰスキーの歴史と物語をご紹介いただいた。

「観光・レク」の視点では、地域機関誌「BYWAY後志」の編集者である久須美英男様から“埋もれがちな地域の物語”にスポットを当てることの重要性についてご指摘いただき、また、北海道博物館の石森館長様からは、北海道の観光のポテンシャルの高さやライフスタイル・イノベーションの可能性などについてご紹介いただいた。

「教育・人材」の視点では、(株)ワイズスタッフ代表取締役の田澤由利様から、広大な土地柄をハンディにしない北海道の新たな雇用形態として「テレワーク」の可能性をご紹介いただいた。

以上、素晴らしい講師をお迎えし、様々なテーマでご示唆に富むご講演を頂戴し、こうした勉強会を通じて得た北海道特有の課題について、解決方策を考える場としてワークショップを設置し、その中で議論を深めながら、同時に見出された様々な“北海道の価値”についてとりまとめてきたところである。今後はさらにキーワード毎に論点を絞りながら、我々がなすべき方策や必要な資源について探ってまいりたい。

4. 未来に向けて

当研究委員会では、“食”、“観光”、“エネルギー”といった北海道の優位性を活かした産業の創出や持続的発展、“広大な大地”、“雪”、“恵まれた自然環境”などを取り入れた北海道らしいライフスタイルや、北海道由来の新たなスタンダードの確立などについて討議や研究を進めるとともに、活動を通じて得た情報や提案を内外に発信していきたい。